



学校だより

バンクーバー補習授業校

2026年度

第7号

2026・7・11

生徒たちの学ぶ意欲が授業をつくる

～ 高等部1年国語科「羅生門」の続編執筆に挑む～

高等部一年生の国語科では、芥川龍之介の『羅生門』を題材とした学習に取り組みました。

授業では、作品の言葉や表現、登場人物の心の動きを読み解きました。そして、最後に学習のまとめとして、生徒たちは「下人の行方は、誰も知らない。」という結末の先に、どのような出来事が待っているのかを想像し、物語の続きを書きました。

課題は、単に続きを自由に考えるというものではありません。芥川龍之介の文章の調子や作品の雰囲気をできるだけ損なわず、自分なりの解釈を物語として表現するという、高度な課題でした。

完成した作品には、悪事を働いた下人が罪の意識に苦しむ物語、次第に悪の世界へと踏み込んでいく物語、羅生門から逃れられず同じ出来事を繰り返す物語、さらには老婆の視点からその後を描いた物語など、それぞれの読み取りや発想が表現されています。登場人物の心理、当時の社会状況、善と悪、生きるものの意味など、原作から感じ取ったものを生徒たちがそれぞれに咀嚼したうえで生み出した力作ぞろいです。

授業では、一人ひとりが自分の作品を発表し、互いの異なる発想や表現に耳を傾けました。同じ作品を読んでも、その先に思い描く世界は一人ひとり違います。友達の作品に触れることで、自分にはなかった見方に気づき、原作への理解もさらに深まったようです。



担当の先生からは、「今年の高等部一年生は、皆がかなり気合を入れて考え、書いてくれた」とのうれしい言葉がありました。生徒が目的意識をもって学習に向かう姿は、指導する先生の意欲も高めます。そして、先生の熱意がさらに生徒の学びを深めていきます。

生徒の意欲が教師の意欲を引き出し、教師の熱意が生徒の成長を後押しする。今回の授業実践から、そのような学びの好循環を感じることができました。

高等部で、仲間とともに学ぶ生徒たちの、これからの成長が楽しみです。

★ 生徒の作品は、すべて手書きで提出されたものを、担当教師がデータ入力したものです。次のURLからご覧いただけます。なお、公表に当たっては、生徒の氏名を伏せております。
<https://drive.google.com/file/d/1FVPs0MMcENf6kQSPX1h1RAUTWJ8-SPRi/view?usp=sharing>